朝鮮民主主義人民共和国の人口変動――人口学から読み解く朝鮮社会主義

目　次

序　章　本書の課題――――――――――11

1. 北朝鮮人口変動の特徴　11
2. 公表統計の概要　14
3. 既存研究の概要　18
4. 本書の特徴　22
5. 本書の構成　26

第Ⅰ部　人口学研究と統計調査事情　29

第1章　朝鮮社会主義と人口学――――――――――30

1. 人口学不在の時期における「人口論」　30
2. 国連人口基金（UNFPA）との協力と人口学探究の始まり　34

第2章　人口調査体系――――――――――45

1. 登記人口調査制度（付論：初期の登記人口調査）　45
2. センサス　56
3. 登記人口調査統計とセンサス統計との整合性検証　66

第Ⅱ部　出生の諸問題　75

第3章　出生転換——76

1. 時期区分と分析方法　76
2. 出生転換の要因分析　82
3. 出生転換の理論的分析の枠組み　101

第4章　男児選好意識の低下とその要因——110

1. 出生性比統計の検証　110
2. 男児選好要因の先行研究　114
3. 歴史的観点からみる朝鮮半島における男児選好要因　116
4. 南北分断後の北朝鮮と韓国の相異　123

第Ⅲ部　死亡の諸問題　131

第5章　生命表——132

1. センサスの評価・補正　132
2. 生命表の作成　143
3. 死亡パターンの検証：モデル生命表との比較　149

第6章　体位の成長鈍化とその要因——165

1. 体位と死亡率の相関　165
2. 計測データ　167
3. 資料の補充　171
4. 体位成長鈍化の要因　175
5. 含　意　186

第Ⅳ部　人口推計　189

第7章　平時の人口推計（1953～1993年）——190

1. 推計対象の定義　190
2. 公表統計の吟味（推計内容検証のための４つの条件）　192
3. 既存研究　195
4. 各期生命表の推計　203
5. 逆進推計　210
6. 推計結果の含意　217

第8章　飢饉推計（1994～2000年）——220

1. 1990年代飢饉の背景　220
2. 既存研究　223
3. 統計情報　226
4. 推計作業　231
5. 推計結果の含意　245

終　章　北朝鮮人口研究の意義——247

1. 人口転換の長期観察　247
2. 「人口学」からみる北朝鮮の民衆　250

[付表]　公表人口統計——256

1. 1993年の年齢別生存数と年齢別死亡数（1993年センサス調査）　256
2. 1993年基準TFR（1993年センサス調査）　259
3. 1986年末基準年齢別人口（登記人口調査）　259
4. 各期の普通出生率＝CBR（登記人口調査）　260
5. 各期の普通死亡率＝CDR（登記人口調査）　260
6. 各期の乳児死亡率＝IMR（登記人口調査）　261
7. 各期の「平均寿命」　261
8. 北朝鮮の公表総人口（1946～2008年）　262

[資料]　『金日成著作集』からの人口問題関連部分の抜粋（1970～1980年）——263

[付録]　2008年センサス——357

はじめに　357
1．2008年センサスの概要　358
2．主要結果　364
3．調査用語の概念と定義　372
4．調査票　375
5．2008年センサス主要表　384

参考文献　389
索　引　401

おわりに（10年間の研究生活を振り返って）　407